

## 全国各地で地区大会開催

### ◆【全国発信記事】 関東地方支部

#### 第77年度 関東地区大会を開催 — 定期全国大会に向け活発な論議 —

##### ●新型コロナウイルス感染症予防対策を万全にして開催

10月7日10時より、関東地方支部3階大会議室において「関東地区大会」を開催し、44人の代議員が出席した。今回の地区大会では昨年同様に、ソーシャルディスタンスの確保、入場時の検温、マスク着用とアルコール消毒の徹底など、新型コロナウイルス感染症予防対策を万全にしての開催だった。関東地区大会では、第77年度活動方針案に対する地区提出議案7本について審議、採択された4本が定期全国大会に上程される

関東地区大会は、井上祐介関東地方支部副支部長の司会で開会し、菅野直樹資格審査委員長から資格審査結果報告が行われ、本地区大会の成立を確認後、議長団選出に移り、議長に齋藤洋関東地方支部長、副議長に黒川泰史職場委員（NSユナイテッド海運）および瀬川亮職場委員（新日本海洋社）が選出された。

##### 議長あいさつ

議長団の登壇で、齋藤議長は「日ごろより本組合の現場代表としての活動に邁進されていることに対し深く敬意を表しますとともに、関東地方支部の諸活動に対しご理解・ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます」とした上で「一昨年末に発生した新型コロナウイルスの世界的流行は、世界経済に深刻な打撃を与えました。この影響により昨年の世界成長率は、リーマン・ショック以来の大幅な落ち込みとなりました。

今年に入ってから、一部の経済大国における大規模な財政支援や、ワクチン接種効果による景気回復もあり、海外経済が堅調に推移してきておりますが、世界の見通しは今も非常に不確実な状態が続いており、日本経済においても、コロナショックから脱却できていない状況が続いております。

一方、このコロナ危機は、世界的なイノベーション創出として、デジタルトランスフォーメーションや、地球規模の環境対策であるカーボンニュートラル実現への流れが強まる契機となっています。こうした潮流の変化に対し、新規事業や人材への投資、異業種間の連携・買収など、国主導で事業構造の転換がなされていくものと想定されます。米中対立を踏まえたサプライチェーンの大規模な見直しもなされており、米中間の貿易はコロナ危機下でも活発に行われる一方で、今後の対立先鋭化に備えた各種法整備が米中両国で着々と進んでおり、わが国の海運・水産界にもたらす影響を注視していく必要があります。

このように、我々を取り巻く環境は刻々と変化をし、日本経済においては、コロナショックから脱却できていない状況が続いております。我々海員組合の労働運動については、社会の趨勢を見極めて進化をさせて、最前線で働く組合員が時代に翻弄されないような活動に邁進していかなければなりません。

本日は第82回定期全国大会に向けての関東地区大会となります。本部から示されている、第77年度活動方針案について、活発かつ建設的な議論により関東地区としての取りまとめを行い、全国大会に挑んでいただければと存じます」とあいさつ、議論を促した。

● 7本の提出議案を審議 — 4本の議案を採択、全国大会へ上程 —

続いて各種委員の選任と書記団、議事録署名人の指名が行われ、井上祐介運営委員長から、議事運営に関する説明が行われた。

議事に入り、高宮成昭関東地方支部長代行から、第76年度の関東地方支部の主要な活動報告が行われ質疑応答で議場の理解を深め、満場の拍手で確認した。

続いて、7件の地区提出議案の審議に移り、1件ごとに提案者から修正案の説明と提案理由が述べられた。

提出議案は第1号議案「当面の課題」に対する修正案が3本、第2号議案「国際・外航部門の活動について」に対する修正案が3本、第5号議案「第77年度総予算および設備計画について」に対する修正案1本の計7本で、参加代議員による活発な議論が展開された。

地区提出議案それぞれを審議した結果、計4本を採択し、11月開催予定の定期全国大会に上程されることになった。

その後、小林泰之書記団長から、議事録作成等の処理に関する確認が報告された後、各種委員の解任が行われた。最後に黒川副議長から議長団降壇のあいさつが述べられ、関東地区大会は閉会した。

「海員だより」